

第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

4-③

施策

だれもが安心して利用できる救急・医療環境を整える

担当部局

保健福祉局, 消防局, 市民病院



【安全・安心】めざすまちの姿 市内のどこに住んでいても、だれもが安心して、医療を受けている

市の基本方針

- 医師会など関係機関と連携をさらに強化し、初期救急患者の受入態勢など救急医療体制の確保・充実に一層努めるとともに、かかりつけ医制度の普及啓発を行い、救急医療機関の適正な利用について市民の理解が得られるよう努めます。また、倉敷市立市民病院においては、安全・安心な医療をめざし、地域の中核病院として医療体制を強化します。
- 新型インフルエンザなどの新型感染症や、大規模災害など緊急時に市民の健康被害が最小限に抑えられるよう健康危機管理体制の強化を図ります。
- 医薬品の正しい知識の普及啓発や相談業務など、生活衛生における安全・安心の確保に努めます。また、難病患者とその家族等への支援を行い、医療提供を受けながら在宅療養できる体制を充実します。
- 市民の救命率向上をめざし、病院到着前の高度な救命処置が受けられるよう、救急車をはじめとする救急資器材の高度化と、救急救命士の養成などによる救急隊員の資質向上を図るとともに、医療機関との連携を強化します。また、市民や事業者に対して、広報くらしき等で応急手当についての普及啓発を進めます。さらに、救急車の適正利用や夜間に受診する傾向への対策のため、かかりつけ医をもつことや、夜間受診のこを含めた病院のかかり方等について、広く情報提供を行います。
- 国民健康保険、高齢者の医療制度の啓発や、円滑な財政運営に努めるなど、必要な取組を進めます。

数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法																																				
<p>身近にかかりつけ医がいる人の割合</p> <table border="1"> <caption>身近にかかりつけ医がいる人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>68.3</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>H23</td><td>69.3</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>H24</td><td>70.9</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>73.2</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>72.5</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>72.2</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>73.0</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>70.6</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>70.9</td><td>75.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>82.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>82.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	68.3	75.0	H23	69.3	75.0	H24	70.9	75.0	H25	73.2	75.0	H26	72.5	75.0	H27	72.2	75.0	H28	73.0	75.0	H29	70.6	75.0	H30	70.9	75.0	R1		82.0	R2		82.0	<p>市民アンケート調査で「あなたは身近にかかりつけ医がいますか。」という設問に対して、『いる』と回答した人の割合。</p>	<p>算出方法</p> <p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、2.6ポイント上がり、前年度に比べ、0.3ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P41】</p> <p>(Ⅱ) 年代別では、70歳以上で82.1%と最も高くなっている。最も低いのは20歳代の58.2%であった。</p> <p>(Ⅲ) 高齢世代で割合が高いのは、定期的に医療を受ける人が多くなることが原因と考えられる。</p>
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																				
H21	68.3	75.0																																				
H23	69.3	75.0																																				
H24	70.9	75.0																																				
H25	73.2	75.0																																				
H26	72.5	75.0																																				
H27	72.2	75.0																																				
H28	73.0	75.0																																				
H29	70.6	75.0																																				
H30	70.9	75.0																																				
R1		82.0																																				
R2		82.0																																				
<p>自分のかかりつけ医の対応に満足している人の割合</p> <table border="1"> <caption>自分のかかりつけ医の対応に満足している人の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>92.3</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>H23</td><td>91.6</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>H24</td><td>93.3</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>H25</td><td>91.7</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>91.8</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>91.9</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>91.2</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>92.4</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>92.2</td><td>94.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td></td><td>96.0</td></tr> <tr><td>R2</td><td></td><td>96.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H21	92.3	94.0	H23	91.6	94.0	H24	93.3	94.0	H25	91.7	94.0	H26	91.8	94.0	H27	91.9	94.0	H28	91.2	94.0	H29	92.4	94.0	H30	92.2	94.0	R1		96.0	R2		96.0	<p>市民アンケート調査において、「身近にかかりつけ医がいる」と回答した人で、「ご自分のかかりつけ医の対応に満足していますか。」という設問に対して、とても満足『まあまあ満足』と回答した人の割合。</p>	<p>算出方法</p> <p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、0.1ポイント下がり、前年度に比べ、0.2ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P42】</p> <p>(Ⅱ) 回答の内訳は、「とても満足」が26.9%、「まあまあ満足」が65.3%、「やや不満」が6.3%、「非常に不満」が0.7%であった。</p> <p>(Ⅲ) 平成21年度(基準値)からほぼ横ばいだが高水準で推移しており、概ね満足していると言えるものと考えられる。</p>
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																				
H21	92.3	94.0																																				
H23	91.6	94.0																																				
H24	93.3	94.0																																				
H25	91.7	94.0																																				
H26	91.8	94.0																																				
H27	91.9	94.0																																				
H28	91.2	94.0																																				
H29	92.4	94.0																																				
H30	92.2	94.0																																				
R1		96.0																																				
R2		96.0																																				

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
医療について気軽に相談できるところがある人の割合	▲	市民アンケート調査で「医療について気軽に相談できるところがありますか。」という設問に対して、『ある』と回答した人の割合。
		動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ) (Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、0.7ポイント下がり、前年度に比べ、0.7ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P43】 (Ⅱ) 年代別では、70歳以上で62.8%と高くなっている。最も低いのは30歳代の36.7%であった。 (Ⅲ) 平成21年度(基準値)とほぼ同水準で推移している。かかりつけ医を持っていても気軽に相談できるところは少ないという人が多い状況と思われる。

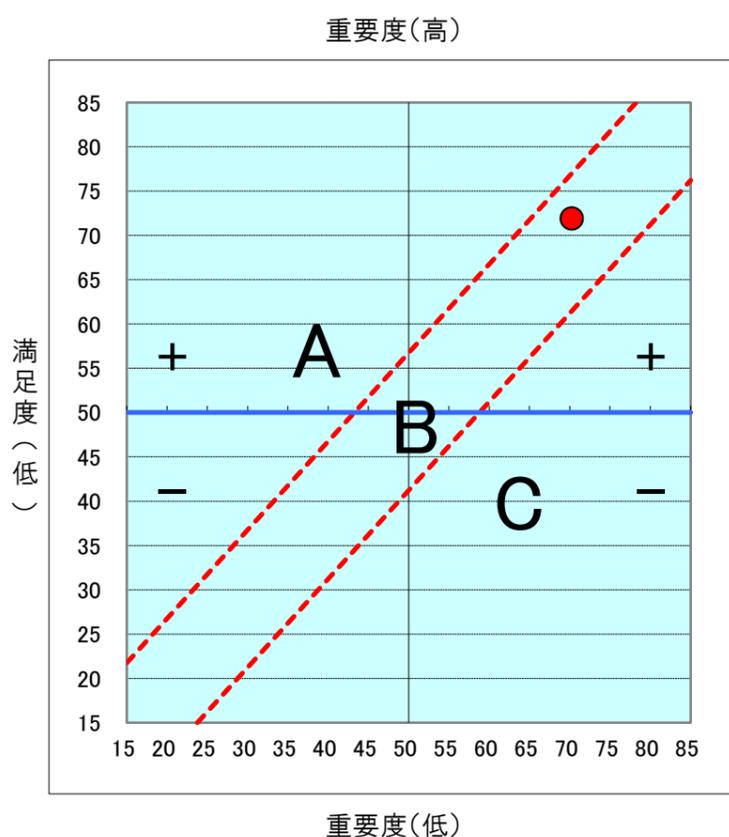
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
応急手当受講者がいる世帯の割合	▲	応急手当講習会の受講者数/市総世帯数×100
		動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ) (Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、17ポイント上がり、前年度に比べ、1ポイント上がった。 (Ⅱ) 平成30年の応急手当受講者は3,504人であった。 (Ⅲ) 応急手当の重要性についての市民の認識が高くなっていることが、指標値上昇の背景にあると思われる。

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額(千円)
	休日夜間在宅当番医等運営事業	(Ⅰ) 市民の休日・夜間における初期救急医療の確保を目的として、各地区での診療を実施した。 (Ⅱ) 休日診療8,136人、夜間診療882人、休日歯科診療1,101人の診療を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	56,705
	病院群輪番制病院運営事業	(Ⅰ) 休日と夜間における重症救急患者の受入体制の確保を目的として実施した。 (Ⅱ) 病院群輪番制病院、小児救急医療支援事業、協力病院当番制病院運営事業を実施し、医療を確保した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	48,310
	休日夜間急患センター運営事業	(Ⅰ) 市民の休日・夜間における初期救急医療の確保を目的として、休日夜間急患センターでの診療を実施した。 (Ⅱ) 休日診療5,412人、夜間診療4,415人の診療を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	78,938
公創	高梁川流域地域医療普及啓発事業	(Ⅰ) 医療の機能分化に対する知識を深め、適切な地域医療環境の構築を図ることを目的として実施した。 (Ⅱ) 高梁川流域圏域において、地域医療の普及啓発を行う団体に助成を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	327
	市民病院医療体制の充実	(Ⅰ) 市民病院において安定的な医療を将来にわたって提供することを目的に、医師の増員や医療体制の充実を図るための事業である院内保育所の運営を行った。 (Ⅱ) 医師、看護師、コメディカル職員の利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	6,522
重公創	市民病院繰出金(周産期医療)(再掲)	(Ⅰ) 地域の出産環境の向上を図るため、常勤産婦人科医師複数体制に伴い、平成28年10月から分娩の受入を再開した。 (Ⅱ) 「令和元年度の分娩件数 年間300件」を目標に、平成29年度は60件、平成30年度は106件を受け入れた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	27,735
公	市民病院建替事業	(Ⅰ) 市民病院において安定的な医療を将来にわたって提供することを目的に建替事業を行った。 (Ⅱ) 平成30年4月1日に新病院を開院した。健診棟の改築工事を行った。 (Ⅲ) 引き続き、旧病院建物の解体・外構整備等の工事を行い、令和元年度中に完成予定。	81,204
	骨髄バンク推進事業	(Ⅰ) 骨髄移植等に関する正しい知識の普及啓発を行い、骨髄バンク事業の推進を図る。また、ドナーが骨髄等を提供しやすい環境を整備するため、ドナー及びドナーが勤務する事業所に助成金を交付する。 (Ⅱ) 大学等でチラシ配布を行い、普及啓発を行った。また、骨髄等のドナー及びドナーの勤務する事業所に対し、助成を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	759

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度 決算額 (千円)
	地域健康危機管理体制推進事業(再掲)	(Ⅰ) 大規模災害時や新型インフルエンザの発生時等に市民の健康被害を最小限に抑えることを目的に実施した。 (Ⅱ) 市内医療機関職員を対象に、平成30年7月豪雨災害時の対応を振り返り、今後の災害発生に備える研修会を実施した。地域住民に対しては、災害時の住民共助の重要性について、啓発を行った。また、岡山県に合わせて新型インフルエンザ情報伝達訓練を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	583
	小児慢性特定疾病医療支援事業	(Ⅰ) 児童の健全な育成を推進するとともに患者家族の負担軽減を目的として実施した。 (Ⅱ) 悪性新生物等の小児慢性特定疾病患者520人に対し、医療費の自己負担分を公費負担した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	134,213
	指定難病医療支援事業	(Ⅰ) 患者が安定した療養生活を送れるよう支援することを目的として実施した。 (Ⅱ) 原因不明で治療法が確立していない難病のうち、国が定める疾病にかかっており、病態など一定の基準を満たす患者3,976人の医療費の自己負担分を公費負担した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	9,458
	難病患者家族支援事業	(Ⅰ) 難病患者等の療養上の不安の解消を図り、患者家族の負担軽減を目的として実施した。 (Ⅱ) 難病患者に対し、面接、訪問相談、医療福祉相談会、患者家族交流会等を開催し、延べ1,623人に対し、相談、指導、助言を行った。 (Ⅲ) 災害時の自助力向上に向けた取組みを継続して実施する。なお、訪問看護ステーションと協働で、災害に備えたしくみづくりをすすめる。	917
	後期高齢者医療事業	(Ⅰ) 安定的な医療を確保し、高齢者の福祉の増進を図ることを目的として実施した。 (Ⅱ) 75歳以上等の高齢者を対象とした後期高齢者医療制度に基づく医療等の保険給付を岡山県後期高齢者医療広域連合と連携して実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	5,797,723
	国民健康保険事業	(Ⅰ) 安定的な医療を確保し、倉敷市の国民健康保険加入者の福祉の増進を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 倉敷市の国民健康保険加入者に対して、必要な保険給付と適正な賦課徴収を行った。特に保険料収納率向上と医療費の適正化に取り組み、健全運営に努めた。前年度に比べ、保険料収納率を0.53ポイントアップすることができた(現年度分:93.04%)。医療費の適正化については、ジェネリック医薬品の普及に向け、ジェネリック医薬品の差額通知を実施したほか、特定健診受診率の向上に向け受診勧奨を行った。 (Ⅲ) 保険料収納率向上対策及び医療費の適正化施策を継続し、なお一層の健全経営に努める。	49,733,841
	救急高度化推進整備事業	(Ⅰ) 救急体制の高度化と市民へ応急手当を普及させることを目的に実施した。 (Ⅱ) 救急救命士6人、薬剤投与認定救命士4人、気管挿管認定救命士4人、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡認定救命士1人、指導救命士1人を養成。高規格救急車2台を更新した。また、応急手当の講習を196回、延べ3,504人に実施した。 (Ⅲ) 救急活動の質を底上げし、救命率を向上させるため、継続して実施する。	85,108

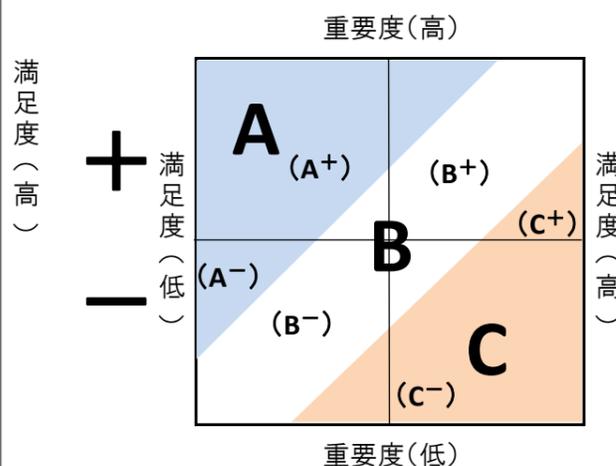
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
B ⁺	71.89	70.27

●重要度に見合った満足度が得られている(B)
●重要度が平均値より高い(+)

【グラフの見方】



A: 重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B: 重要度に見合った満足度が得られている領域
 C: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +: 重要度が平均値より高い部分
 -: 重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

課題

- インフルエンザ等感染症の流行時に、休日夜間急患センターの受診者数が急増することへの対応が求められている。
- 救急搬送の49.9%(H30)が入院を要しない軽症患者であり、真に救急搬送が必要な市民の妨げとなる場合があるため、救急車の適正利用を啓発していく必要がある。
- 救命講習受講者について、効果的な広報をしながら、更に受講者を増やしていくことが重要である。

今後の取組み方針

- 休日夜間急患センターにおける診療について、受診者数の急増に対応する体制づくりを進めるとともに適正受診について普及啓発を図る。
- ポスターの掲示、各種行事や市広報紙での呼びかけ、メディアでのPR等により、予防救急及び救急車の適正な利用について啓発していく。
- 自宅で応急手当の知識を学習できるシステム(eラーニング)等を活用し、救命講習を受講しやすい環境を充実させ、受講者を増やしていく。